

令和6年度 第2回 公民館運営審議会 会議録

1 日時・場所 令和7年2月19日(水) 午前10時00分～12時00分
三木南交流センター 2階 研修室

2 出席者

<委員15名>

藤田 均委員長 蓬萊菜道龍副委員長 井上澄子委員
田中紀美代委員 告野幹也委員 塚北和徳委員
藤原敏行委員 徳沢芳彦委員 大島あんず委員
横田浩一委員 計倉哲也委員 藤井尚美委員
佐藤敦子委員 寺本善英委員 池澤絹代委員
(欠席:池井宏明委員 森岡元子委員 福島康之委員
岡本貴美代委員 田中善子委員)

<事務局14名>

大北由美教育長 森田眞規教育総務部長
河端 康生涯学習課長
金井善純館長 藤田敏行所長 大西真一館長
藤井克成館長 長谷川敏彦館長 廣岡喜人館長
安福昇治館長 梅田宏和館長 野口博史館長
藤田良之館長 山本 寿副課長

3 報告

- (1) 各公民館の令和6年度事業実績及び来年度に向けた活動方針(案)について
- (2) 地域まちづくりに関することについて
- (3) 令和6年度住民学習実施状況調べについて

4 公開・非公開の別 公開

5 傍聴人の数 0人

6 会議の概要

-
- | | |
|---------|---|
| 1 開 会 | 山本生涯学習課係長 |
| 2 あいさつ | 大北教育長 |
| 3 報 告 | (1) 各公民館の令和6年度事業実績及び来年度に向けた活動方針(案)について(各館長より説明)
(2) 地域まちづくりに関することについて(山本副課長)
(3) 令和6年度住民学習実施状況調べについて(山本副課長) |
| 4 議 事 | 中央公民館の複合化に伴うコミュニティセンター(市民センター)化について(河端課長より説明) |
| 5 そ の 他 | |
| 9 閉 会 | 蓬萊副委員長 |
-

3 発言の内容

各公民館からの事業実績報告等についての質疑応答

徳沢委員：デジタル化が進むと同時に、一方で闇バイトや詐欺被害が増えてきている。デジタル化を推進することによって詐欺にあうといった方もあると思う。それも踏まえながら、各公民館において高齢者を対象に、防犯的・啓発的な内容の講座や啓発チラシなどを実施、作成されているようならお聞きしたい。

長谷川館長：毎月の区長協議会にて、「駐在所だより」を全戸配布したり、駐在所のおまわりさんに来ていただき、高齢者を対象に啓発講義をしていただいたりしている。

梅田館長：自由が丘では生活安全推進協議会を3回開催しており、警察や市役所担当課に来ていただき、町内・市内で起こっている詐欺事例や防犯に関する情報交換をしたり、様々なチラシや防犯機能の付いた電話等を紹介したりしながら、地域で防犯をしていこうという取り組みを行っている。

金井館長：中央公民館ではシルバーいきいき教室において、三木警察の職員に来ていただいて「特殊詐欺から身を守る」というテーマで講話をいただいた。他館でも同様の実績があると思う。

徳沢委員：ありがとうございました。デジタル化が進み、高齢者の方にとっては難しくてわからないと、公民館に足を向けないといった方もおられるのではないかと思います。デジタル化の推進だけではなく、啓発もかねて公民館に足を運んで防犯講座も受けていただけるよう周知を図っていただきたい。

田中委員：別所地区の文化祭が予定されているが、これまで子どもの参加が少ないことが課題であり、これまでさまざまな協議をしている子どもを参加させる手立てについて、各地区でなされている具体的な取組を紹介いただき参考にさせてもらいたい。

藤田所長：三木南地区は比較的子どもが多い地域である。しかしこれまで子どもが中心となっで行われる事業は、子ども会等ではされていたが、地域を挙げての事業としてはあまりなかった。そこで、昨年度初めて「子ども縁日」という名目で、3回、子どもが内容を企画、準備し当日の運営、片付けまでを行った。

広野小学校や地域に「ボランティア小学生募集」のチラシを配布した結果、約20人の児童が集まった。またそれを支えるボランティアスタッフとして、三木東高校にもチラシを配り約20名の高校生の協力を得た。そこに地域の大人も関わって3回のイベントを行った。しかし、あくまで子どもが主体であり子どもがすべて手作りでイベントを開催した。

今年度は2年目、昨年12月には縁日という言葉を使いながら、「子どもフェスティバル」ということで、様々なお店や遊びのコーナー、玄関には参加者全員で作った大きなクリスマスツリーを飾った。準備等は大変であるが、小学校の協力もあり子どもたちが主体となって開催できた。

田中委員：ありがとうございました。別所地区も文化祭や公民館行事等には、中学生はずいぶん前から参加をしてくれているが、主体的に取り組めるものを少しでも取り入れることができればと思う。

告野委員：まちづくり協議会について、役員が単年で変わるため、継続性が課題であると、2～3の地区から報告があったと思う。地域で決められている任期の変更をお願いすることはできないが、継続性のある課題については複数年にわたっ

て協議を継続する必要性があるのではないかと思いますので、課題によって構成メンバーを選び、(役員の任期に関わらず)複数年にわたって継続して協議をしてもらえないか。

藤井館長：志染では昨年度より、継続しての協議の必要な3つの地域課題について協議する場として「特別委員会」を設けている。任期を設けず立ち上げメンバーが課題の解決、もしくは軌道に乗るまで続ける。場合によってはメンバーが加わることもある。

横田委員：先ほどの事業報告についての質問の中で、子どもの参加が少ないのではという話題が出たが、GIGA スクール構想により一人一台のタブレット端末を持っている子どもたちが、Wi-Fi 環境が整備された公民館に行きタブレットを使うなど、Wi-Fi の導入により子どもたちの利用に変化があれば教えてもらいたい。

野口館長：先日、5年生の女の子が二人、公民館の窓口で「接続ができない」との申し出があった。見ると、メールアドレスが不明とのことであったため、生涯学習課と教育センターと連携して解決した事例があった。子どもたちの情報拡散力により、その後は同様の申し出はなくなった。

大島委員：娘が国家試験を受ける。そこで、公民館にパソコンを持ち込み、Wi-Fi に接続することで調べ学習ができることを喜んでいる。また、受験シーズンでもあり、ほかの学生たちも公民館に様々なテキストを持ち込み、Wi-Fi も活用しながら、互いに励ましあい勉強しているとのこと、大変ありがたい。

計倉委員：各公民館の取組を聞かせてもらい、また、資料を見せてもらおうと、各講座やセミナーにいろいろな講師の先生を招聘されている。公民館相互の情報共有もあると思うが、どのような方法で講師を発掘されているのか。

梅田館長：この度のスマホ教室の講師は、以前に区長をされていた方で、区長会の情報等を、情報端末を活用して発信をされていた。パソコン等に精通されている方であったため、機会があれば講師をお願いしようと考えていた。ただそれぞれの講座を開講する際、すぐにそのような講師が見つかるわけではないし、謝金等様々な制約もあるため、各公民館での情報交換により講師を決めることが多い。

河端課長：生涯学習課では「みっきい生涯学習講師団」という派遣制度があり、約80人の講師に登録いただいている。各公民館ともアンテナを高くし、時には講師自らの売り込みもあるため、多くの情報を持っているので、相互に情報交換等をしてしながら各講座を運営している。

野口館長：今回の公運審の資料が、他の公民館の講座内容を知る貴重な資料となっている。

塚北委員：各公民館では乳幼児教育学級を実施されており、たくさんの回数、多くの参加者があることを見させていただいた。子育てをされている方々を支援していくためにも非常に有効な手立てとなっていることが数字からもうかがえる。公民館だけではなく「子育てキャラバン」といった取組も市ではされている。多くのチャンネルがあることは、社会全体で支えていこうという意味では有効であるが、公民館では他部門との連携はどうなっているのか。

一方、中止をされている公民館もあるがその地区では一つのチャンネルが欠落している状況が生まれているわけで、今後取組を復活させるという予定があるのかお尋ねしたい。

大西館長：二つ目の質問について、別所町公民館の中では乳幼児教育学級を開設していないが、地区内に公立の認定こども園があり、そこに行かれる方、また、園庭

開放の日もあるため、相談事のある方はこども園に行って相談、交流ができる環境があるため、乳幼児教育学級がなくてもこども園で相談等ができる。また、家庭教育学級を認定こども園に委託して講師を招聘しての会を開催しており公民館はその支援をしている。公民館単独ではなく、地域の中で乳幼児の親子支援をしているため滞っているという意識はないと思われる。

梅田館長：少子化やこども園の受け入れが幅広くなったこと等の影響もあり、公民館の乳幼児教育学級に参加する子どもが激減しており、参加人数を確保することに苦慮している。地域への取組の周知のため回覧をまわしたり、子育てキャラバンとも連携を図りながら参加されている方に情報提供したりしながら、何とか参加者を確保している状況であり今後の大きな課題であると考えている。

塚北委員：いろんな場所を提供することはいいと思うが、キャラバンと内容が被るようであれば参加者は増えないだろう。連携をさらに深めていただいているような角度からの支援が実現できるよう努めてもらいたい。

藤井委員：子育て支援事業青山コルテス等をさせていただいているが来場者がいないことが課題。イベント等もいろんな角度から興味関心を考慮して行っているが人が来ない。人集めは大きな課題であるため良いアイデアがあれば教えていただきたい。

藤田所長：先ほど（三木南地区は）子どもが多い地域であると申し上げたが、当館は地域以外からも多くの来場がある中で、親子を対象にしたサークルがあり地域外から多くの参加がある。絵本の読み聞かせや、親子で新体操といったような、子どもだけで体を動かすのではなく、親子で一緒にするといった内容のものがこのサークルにはたくさんある。

4 発言の内容

中央公民館の複合化に伴うコミュニティセンター化についての質疑応答

河端課長：中央公民館を複合施設に変えようと現在進めている。中央公民館、市民活動センター、高齢者福祉センターの三つはそれぞれ貸館業務も行っているということで機能も似ているが、高齢者大学「まなびの郷みずほ」もこちらに呼び戻そうということで、市の施設4つをまとめて複合施設化をしようと計画を進めている。それに含め、三木商工会館も部分所有をするということで、四つの公共施設と一つの民間施設を含めた形での複合化を進めている。複合化の目的の一つとしては、いずれの施設も築年数が経ち老朽化が進んでいることや、今後ますます人口が減ることが予想される中、たくさんの公共施設を持っていることが維持費の増大につながり、結果、維持が困難になることが考えられたため、市の負担を減らすことにある。

公民館は社会教育施設で社会教育法の範疇での活動になっているが、市民活動センター等、他の施設に関しては社会教育法に縛られない一般の公共施設となっているため、新施設を公民館のルールでもって運用をしようとするとう無理が生じる。そのため、複合施設は多様な目的で利用できるコミュニティセンター化を進めていくこととしている。

新施設を総称してわかりやすく「コミュニティセンター」化と今は言っているが、この名前にするのではなく、今後、いろいろな名前が考えられる。

コミセン化する目的については資料に図示しているが、4つの施設を一つに

複合した施設をコミュニティセンターという形でやっつけようというもので、現在どの施設を利用している方も皆が複合施設を利用できる形、社会教育法に係らない形でコミセン化を図るものである。施設名は新施設にふさわしい名前を皆さんで考えていただき、現在それぞれがされている活動をそのまま継続できる形を考えている。現在公民館で行っている生涯学習講座が開設できるほか、地域のニーズや実情に合わせた自主的な地域づくり活動が可能となると考える。

またコミセン化することで、例えば、地域の発展につながる有料のイベントや、地域で採れた野菜の物販など、一定のルールのもと開催できることも考えられる。中央公民館については複合化を進めるにあたりコミセン化としなければならない事情があることをご理解いただきたい。

他の公民館は社会教育施設ということで、生涯学習の場ではあるが、地域の実情により、子ども食堂や買い物支援などの地域活動・まちづくり活動を公民館と一緒にやって行っているように、自治会と連携して職員が地域に出ていっている現状もあり、すでに、公民館の枠を超えて値域のまちづくり事業を担っており、急いでコミセン化に踏み切る現状ではないと考える。ただ、中央公民館のコミセン化に伴い、新たな取り組みや広がりが出てくるとも考えられるため、状況を見極めそれぞれの公民館をコミセン化していくことも考えられる。地域の方とも協議をしていきながら、公民館の今後を考えていただきたい。

井上委員：公民館を利用する機会は多い、公民館の特色を生かしたものや、自分たちが知らないことも多いので、公民館利用はありがたい。皆さんにもお勧めしたい。

藤原委員：中央公民館の将来の展望について、各公民館はそれぞれに自由活発に活動をしていただいております、年々公民館の活動は地域に定着をしている。緑が丘地区は町ができてすぐに公民館ができた。53 年が過ぎ高齢化も進んでいるが、公民館はありがたいことに生活基盤の中心となっている。新しくできる中央公民館の活動は欲張りすぎないように、どういう名前にするかは、総合福祉センターであったり、総合情報センターであったりなどにしてはどうか。公民館が置き去りになってしまわないようにしていただきたい。

佐藤委員：自由が丘ではバスケットをされている方が多く、他には卓球をされている方にはかなりの高齢者も多く参加されている。今スポーツクラブが受けている使用料などの減免等がコミセン化されるとどうなるのか。このような疑問点について話し合いながら進めてもらいたい。

寺本委員：中央公民館は三木地区のコミュニティの場、しかしそれ以外は三木市の施設として、利用者が目的をもってこられる場所である。そのあたりのかみ合わせというものがかなり難しいのではないかと。たとえ建物が同じでも公民館施設には「社会教育・生涯学習の場」として三木地区の方が来館されるため、利用目的の違う他の施設の利用者と肌が合わないということも出てくるのではないかと。

池澤委員：自身の住む吉川地区と比べ、三木地区は公共交通も含め、交通が便利なことにはうらやましい。現在の中央公民館は公共交通も便利な立地となっているため、複数の施設を集約することは利用者にとっても利点があると考えられるため前向きに進めていただきたい。

蓬萊副委員長：現在の瑞穂にある高齢者大学の様子を見ると、催しのある時などはグ

ラウンド駐車場がいっぱいになる。施設内も学生作品でいっぱいになっており、現在の施設が狭く感じるくらいに活用されている。その方々が、現在の中央公民館跡地の複合施設に移転するとなると、駐車場や施設規模は大丈夫だろうか。

授業利用のコマ数と施設規模とを考えると十分足りるとの説明を受けたが、他の利用者と高大の学生の使用する時間が集中することもあるのではという心配も生まれる。

就業年齢の延長の動きもあり、これまで活動していたグループの世話人が仕事を始めたため、グループの活動に参加できなくなったという事例がある。既存のものを無くすのは簡単だが、新しくつくことは難しい。複合施設の計画進行はやむなしと考えるが、既存のグループ等の活動は新施設完成後も保証されるのか。ハード面だけではなくソフト面もしっかり検討していただくことを希望する。また、年度替わりに担当者が変わること、既存のものがなくなるといったことのないよう、また、相談窓口も含めた人事面についての配慮もお願いしたい。

告野委員：中央公民館等の複合化・コミセン化に賛同する。社会教育法にこだわらず、現状の延長、フレキシブルに活動をしていくためのコミセン化、さしずめ「中交流センター」になるのかと思う。

冒頭教育長より、すでに基本計画、概要ができており、議会に諮ったのち広報をしていくというお話があった。かねてから、高齢者大学は今の市民活動センターという利便性の良いところにあったのを、環境の良いみずほに移転した。それを再び中央に持ってくるという計画である。公共施設の再配置計画が見直されることは理解できるし当然そうあるべきと思うが、高齢者大学まで複合化に組み入れることは、藤原委員のご意見のように欲張りすぎではないか。高齢者大学は学校であるから、グラウンド・体育館も必要であるのに。複合化によりその機能を取り上げてしまうことになる。公共施設の再配置は学校も含めて考えるべきであって、三木地区で考えると、将来、三樹小、平田小が三木中に集約される計画なのであれば、それも含めて高齢者大学の配置を考えないと、将来行き詰るのではないか。小中学校の統廃合を進める中で、たとえば志染中学校あたりに高齢者大学を持っていくべきではないか。そして、三樹小あたりを有効活用されるなどの方法も検討できるのではないか。現在の計画が後戻りになるかもしれないが、まだ時間はあると思われるので、将来に禍根を残さないようにしていただきたい。

藤田委員長：一番気になっているのは商工会議所も統合されること。ほかの施設とうまく調整していただきたい。

大北教育長：基本計画はほぼ完成しており、今後地域団体等に説明を申し上げる。そのため、今からまなびの郷みずほを切り離すことはできない。高齢者大学の学園祭では今の広い校舎をふんだんに使っておこなった。同様の内容を複合施設に持ってくることはできない。ただ、普段の講座やクラブ活動はできる見込みで計画をしている。駐車場や体育館の問題があるが、体育館を新たに作ることはできない。そのため、体育館での演劇活動等に参加できる人数は限られてくる。しかし、働かれる方の増加もあり、高齢者大学の人数、入学者の人数が少ない現状がある。また、学部を卒業されると次は院に進まれるなど、中には20年も通っておられる方もいる。新たな入学者を確保するため、様々な場所や場面で入学の勧誘を行っているのが現状である。（複合施設で

は)現在のようにのびのびとスペースを使い活動できるようにはならないが、人数が減ってきていることも鑑みて、現在の活動が新施設の面積でも可能であるとの見通しで計画をしている。

小中一貫の話題が出たが、これから先更に子どもが減る見通しのため、計画の目途はたっていない。吉川に小中一貫校を作りそれをモデルに進めていこうと計算をしているが、三木中校区は子どもの数がまだ多いため、小中学校を一つにまとめることについては先が見えていない。

唯一の民間施設である商工会館が入ってくるが、今のところ5階建てのうち一つの階を使うことになるが、他の施設との共有室等を話し合っ使用することになる。それは、現在の施設の中でも使用されていない、空いている部屋が多く、非常にもったいない状態であるため、集約して合理的に稼働させようという意図である。

カフェやホテルの併設等、地元からはいろんな意見をいただいている。基本計画はできているが、民間施設をとという要望があれば、今後入るコンサルとも相談しながら進めていく。

ただ四つの公共と一つの民間、この五つの施設が一つになるということに関してはすでに進んでいることであるため、後に戻すことはできないと考えている。

河端課長：中央公民館は三木地区、他の施設は全市的な施設ということで、肌が合わないのではというご意見をいただいたが、新たな人の交流ができ、活動の幅が広がるという期待も同時にある。新しい施設がそのような場になることを願っている。